



Innsbruck の街角にあった看板
After Robin McLaren

Ein Geometer ist:
ein Experte im Vermessungswesen; siehe Geodät.
ein Mathematiker, der sich mit Geometrie beschäftigt.
測量技師あるいは幾何学者のことである

オーストリアでは、社会的に信用のある順番は、
公証人、測量士、僧、...それからず一つと下って政治家...
だそうな

プログラム 第1日

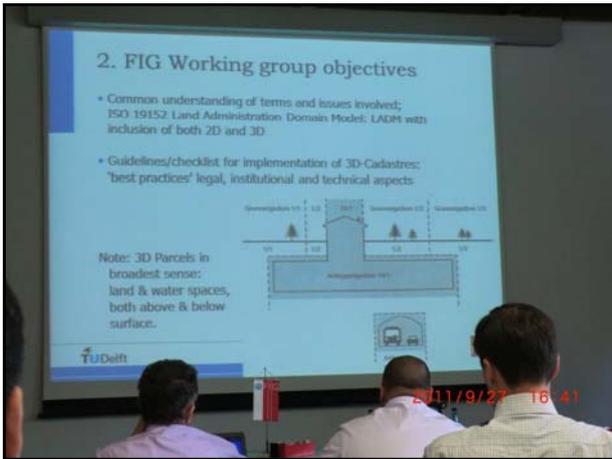
- Session 1 – Opening
- Session 2 – Reports about FIG Activities
- Session 3 - Commission 7 Working Groups Reports
- Session 4 – The Future of Cadastre

第2日

- Session 5 – Special items of interest (国有地の扱いとチェコの地籍)
- Session 6 – Cadastre as a tool for disaster management (海津はここで発表)
- Session 7- Country Reports
- Session 8 – Buildings as part of the Cadastre

第3日

- Session 9 – FIG Special activities (各国の地籍の現状について、ISO19152の現状、若手支援)
- Session 10 - Commission 7 Working Group Future Plans (海津は災害対策に参加)
- Session 11 – Cadastre beyond 2014 (現在のプランの後継プランについて)
- Session 12 – Future Events and Closing of Annual Meeting



第4日

- *Technical Excursion* (カフスタイン測量局訪問とユーロ高速鉄道地下トンネルインスブルック工区の見学)
- チロル州知事招宴



第5日 国際公開シンポジウム

- Opening and Welcome address
- Session 1 "The world around us – social media for e-government"
- Session 2 "The world around us – social media for social purpose"
- Session 3 "The world around us – social media for a sustainable cadastre"
- Session 4 "The world around us – what's next?"

印象に残った議論

地籍の今後、災害対応、地籍2.0

地籍の今後

- 3D,4D 地籍
- オーガニック(柔軟)な地籍
- 地面より社会問題が大切であることを忘れない
- 貧困対策
- e-Gov. ただし政府や公共団体には金がない
- 信頼性
- 非政治性
- 先端技術対応
- 地籍とはドキュメントであり、管理とは過程である

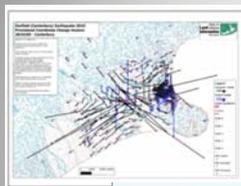
セッション1における問題提起

- 土地情報基盤では
 - だれが責任を持つのか
 - 共通座標系
 - ネットワーク
 - ポジショニング
 - データを共有すること
 - その中で測量士のやれること(やるべきこと)
- 影響を受ける者との協調

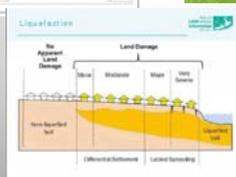
最近の世界各地の地震災害について

災害と地籍

ニュージーランドの地震 (クライストチャーチの地震)



変動ベクトル図は
ほぼ垂直な横ずれ
断層に典型的なパ
ターン



液状化部分は表面現象
なので境界は動いていな
いと扱う

定まった法律がないので
困ったとの報告があった

我が国の先例集では

兵庫県南部地震による土地の水平地殻変動と登記の取扱いについて(平成7年3月29日付法務省民3第2589号民事局長回答)

この度建設省国土地理院が阪神間の一・二等三角点について緊急測量を実施した結果、本年一月一七日の兵庫県南部地震により、三角点の水平移動が数センチメートルから数十センチメートル生じていることが判明しました。については、上記地震により水平移動した地表面を測量した地積測量図を添付した登記の申請・嘱託事件等の取扱いについては、基本的には次のような考え方によって処理することとしてよいか、お伺いします。

記

地震による地殻の変動に伴い広範囲にわたって地表面が水平移動した場合には、土地の境界も相対的に移動したものとして取り扱う。
なお、局部的な地表面の土砂の移動(崖崩れ等)の場合には、土地の境界は移動しないものとして取り扱う。

回答

本月二〇日付け不第一三三号をもって照会のあった標記の件については、貴見のとおりと考えます。

ハンガリーからの報告
地震による鉋滓ダムの決壊



The Damaged Reservoir



Demarcation of flood on Papiidye image

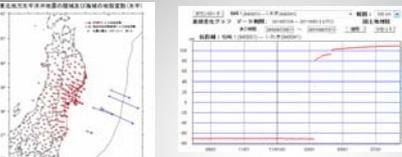
Areas on agricultural subsidies

Professory initiative about the area of subsidies by Aja red study 4

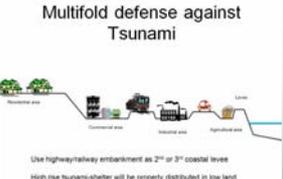


リモートセンシングの活用と土地利用データの重ね合わせで速やかな被災状況把握が可能になった
ハンガリーのFumiは測量局でもあるので、地籍だけではなく、リモートセンシング等の測量成果も強調された

海津より東日本震災について報告

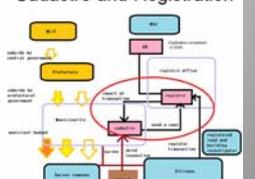


Multifold defense against Tsunami



Use highway/railway embankment as 2nd or 3rd coastal levee
High the tsunami-shelter will be properly distributed in low land

Cadastre and Registration







災害WGの提案

- FAO-FIGの協力で、災害対応のe-learning教材を作る
- ケーススタディ用の写真を含む簡単なドキュメントを提供してもらう
- ニュージーランド、アイスランド、日本、水害に関してマレーシアなど

国際公開シンポジウム「地籍2.0」

- 課題としての 都市化、スラムの拡大、測量者不足、GNSS、モバイルフォンの普及、社会が地理情報に目覚めた、クラウドの普及
- コミュニティベースの品質保証⇒ラオス、カンボジア、アゼルバイジャン
- クラウドは米国のように地図が入手しやすい国でも流行っている⇒官僚主義に対抗するだけでもないようだ
- プロでもアマチュアでもない中間のものが増える
- ソーシャルメディアによるコンテンツ共有と低品質データのフィルタリング

地籍2.0の背景～スマートフォン～

Spatial enablement of individuals



Swiss Federal Office of Topography swisstopo
Federal Directorate for Cadastre and Surveying

David Seidler
Basel, 28 Sep. 2011

LADMの検討を踏まえた実践例

Social Tenure Domain Model

- World Bank/UN-HABITAT field test Ethiopia (2009)



- Very high understanding of images
- Very participatory approach



地籍2.0の課題

- ボランタリな地理情報の信頼性、保管の問題、社会心理的な課題
- どこから出たデータで、それは何に使ってよいのかをメタデータとして付加できるのは測量士
- 権利の保護という観点での地籍は2.0でどうなるのか
- 災害対策には土地保有情報(Tenure)が大切
- 合法性・正当性をどう担保するのか
- 銀行が受け入れることができるか⇒Finance

結局総括として言われたことは

- 測量士が手を拱いていれば、非正規の地籍もどきが横行することになるだろう
- 座標がわかって通信のできるものと、オープンストリートマップの組み合わせは極端に効率的である
- 精度は将来向上するから今から対応せねば
- 課税地籍としては今でも有効
- 動きを見誤れば食えなくなるだけだ

我が国では

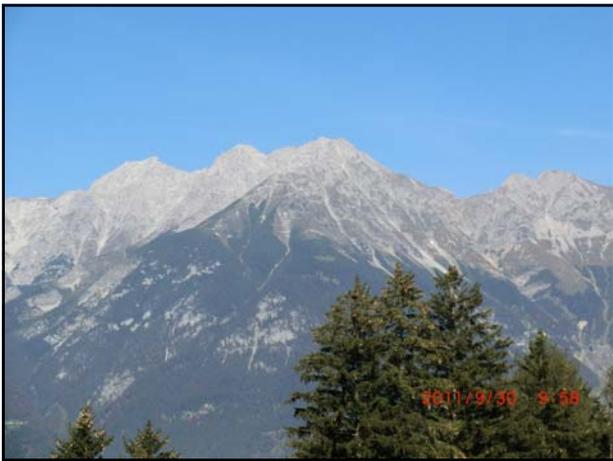
- 土地の問題については住民の権利意識が高いため、測量の正当性が厳しく問われる
- 地籍2.0という形にはなりにくいであろうが、住民による日常的な検証のようなことは生ずるであろう。
- 精度について一般の理解は必ずしも高くない
- マップマッチングの結果を高精度と考えているナビユーザは数多くいる
- 測量士の信頼性を強調する必要

ここからはおまけ

麗しのチロル









御報告は以上です
第7部会の活動に引き続きご支援をお願いします